

## 平成27年度第2回幕別町創生総合戦略審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成27年9月9日(水) 18:30~20:30
- 2 場 所 町民会館2階講堂
- 3 出席委員 藤原会長、森委員、土谷委員、山内委員、滝田委員、森岡委員、木島委員、佐々木委員、大槻委員、山本委員、喜多委員、田巻委員、仙北谷委員、宮本委員、三島委員、村田委員  
(遅参: 中村委員、堀川委員)  
(欠席: 宮田委員、水口委員)

- 4 町出席者 細澤室長、山端参事、河村副主幹、有田主事、西嶋
- 5 一般社団法人北海道開発技術センター出席者 越後主席研究員、小西研究員

### 6 会議要旨

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶

### 7 議事概要

#### (1) 住民アンケート調査の結果について

資料1により西嶋副主幹から説明

(説明概要)

- ・ 8月末現在のアンケート回収数1,007票(回収率32.4%)
- ・ 各アンケートの共通質問項目に対する信頼係数95%超(有効サンプル数377票以上)
- ・ 幕別町の居住理由(P8)  
「近い」「帯広」「環境」のキーワードが多く出現。仕事や家族の都合により帯広市に近いことが理由として挙げられた。
- ・ 幕別町の自慢(P9)  
「パーク」「ゴルフ」「自然」のキーワードが多く出現。パークゴルフ発祥の地、豊かな自然が多い等が自慢。
- ・ 幕別町の魅力として広く町外にPRしていくもの(P10)  
「自然」「環境」「パーク」「子育て」のキーワードが多く出現。転入者からは「子育て」「環境」「自然」のキーワードが多い。
- ・ 幕別町の暮らし全般への総合評価(P11~P19)  
「満足度」と「重要度」から施策の課題の洗い出しと優先順位付けを行う。  
地域ごとに課題の違いが見られる。
  - ・ 町全域の最優先改善施策: 防災(避難場所・耐震)に向けた取り組み  
町内地域の交流・連携に向けた取り組み  
(全地域と比較して)
  - ・ 札内市街地: 最優先改善施策は特になし。  
家庭ゴミの処理や交通安全対策など生活に関すること、生涯教育やスポーツ環境の整備、商店街や町内の経済の魅力など17項目が改善施策
  - ・ 幕別市街地: 商店街の活性化、医療施設の整備、高齢者や障害福祉など9項目が最優先改善施策。管外・道外などに行くための交通手段など4項目が改善施策
  - ・ 忠類市街地: 町並みや景観の整備、森や川などの自然環境、農林業など一次産業の魅力など11項目が最優先改善施策。新規企業の誘致、除雪・排雪体制の整備など9項目が改善施策
  - ・ 幕別札内農村地域: 地域資源を活用した製品開発・販売、快適な住環境など4項目が最優先改善施策。森や川などの自然環境や市民活動へ参加しやすい社会に向けた取り組みなど7項目が改善施策
  - ・ 忠類農村地域: 上下水道の整備、農林業などの一次産業の魅力など6項目が最優先改善施策。除雪・排雪体制の整備など4項目が改善施策

仙北谷委員 CSVポートフォリオから見ても地域ごとに施策ニーズが違う。それを達成するのは困難な仕事である。その違いを踏みながら施策を打つ必要がある。

人口動向を見る限り、やはり帯広市を始めとした定住自立圏域内で幕別町の人口は左右される。そのため、幕別町だけを考えるのみではなく、周辺地域との関係性を踏みながら施策を打つべきである。

しっかり時間をかけたアンケートなので、クロス集計などをしてより深い分析が必要。

既存の他の調査との関連付けはできないか。例えば子育て支援に対する企業の姿勢などを尋ねたアンケートなど。

藤原会長

移住定住が活発な街はやはり魅力がある街である。

子育て支援については、景気の悪い中で子育て支援までケアできる企業はなかなか少ない。高校生などと就職について意見交換をすると「安定」という言葉が頻出する。

事務局

アンケートの結果、地域ごとに施策ニーズは違う。ただ、町として地域ごとに個別具体的な施策を打つことは難しい。全地域を包括できるような事業から優先的に打っていきたい。

現在、十勝定住自立圏構想を策定中である。移住定住などの広域的な案件に関しては、定住自立圏構想の中で主張していきたいと思っている。

## (2) 幕別町人口ビジョンの骨子について

資料2により西嶋副主幹から説明

(説明概要)

・P1～P8は第1回会議で説明済みのため、今回追加した(5)産業別人口の男女別産業分類、年齢階級別産業分類について説明。

・将来人口の推計(P11～)

幕別市街地・札内市街地・忠類市街地・幕別札内農村地域・忠類農村地域ごとに2060年まで5年ごとに将来人口を推計

直近データの活用と町が管理している情報であるため活用しやすいこと等から住民基本台帳人口を基準とする。

推計パターンは、本日7パターンを提示

ア 平成27年3月末の住基人口を基準人口として、社人研の推計方法により推計

イ 推計1 国の長期ビジョンに基づき推計

(合計特殊出生率が1.6(2020)、1.8(2030)、2.07(2040)、社人研移動率に準拠)

ウ 推計2 国の長期ビジョンに基づき推計

(合計特殊出生率が1.6(2020)、1.8(2030)、2.07(2040)、移動率をゼロと仮定)

エ 推計3 住民アンケート結果の希望子ども人数から算出した20歳～39歳の町の合計特殊出生率による推計(合計特殊出生率が1.55、社人研移動率に準拠)

オ 推計4 住民アンケート結果の希望子ども人数から算出した20歳～39歳の町の合計特殊出生率による推計(合計特殊出生率が1.55、移動率をゼロと仮定)

カ 推計5 住民アンケート結果の希望子ども人数から算出した20歳～39歳の地域別の合計特殊出生率により推計

(地域別の合計特殊出生率：札内市街地1.63、幕別市街地1.49、忠類市街地1.38、幕別札内農村地域2.06、忠類農村地域2.16 社人研移動率に準拠)

キ 推計6 住民アンケート結果の希望子ども人数から算出した20歳～39歳の地域別の合計特殊出生率により推計

(地域別の合計特殊出生率：札内市街地1.63、幕別市街地1.49、忠類市街地1.38、幕別札内農村地域2.06、忠類農村地域2.16 移動率をゼロと仮定)

・幕別町の将来推計人口(P13)

推計方法の違いにより、2015年と比較して2040年は9.82%～19.88%減、2060年は15.26%～36.23%減と減少幅に差が現れる。

・地域別の将来推計人口(P14～P18)

主に推計3と推計5を参照。

・札内市街地 2015年と比較して、2040年で約1～10%の減、2060年で約3～22%の減

・幕別市街地 2015年と比較して、2040年で約31%の減、2060年で約48～49%の減

・忠類市街地 2015年と比較して、2040年で約26～28%の減、2060年で約40～43%の減

- ・幕別札内農村地域 2015年と比較して、2040年で約23～30%の減、2060年で約29～43%の減
- ・忠類農村地域 2015年と比較して、2040年で約17～24%の減、2060年で約22～37%の減  
移動率をゼロと仮定した場合は、いずれも上記より減少幅が大きくなる。  
札幌市街地の人口は大きく減少することは想定されないが、幕別市街地などその他の地域では現在と比較して大幅に減少することが想定される。

- ・年齢別の将来推計人口(P19～P22)  
同様の推計方法により年齢別の将来人口を推計。  
合計特殊出生率を向上させることにより、0～14歳の年少人口は増加する推計もあるが、15～64歳の生産年齢人口は、いずれの推計でも2060年にかけて減少する。  
65歳以上の高齢者は、2025年にかけて一旦増加し、その後減少する。
- ・人口動態が地域に及ぼす影響、人口の将来展望  
いずれも原案に記載するが、想定される項目例として①～⑥が挙げられる。

事務局        そもそも地方創生の議論は、2060年には女性人口が半減し、地方消滅が叫ばれたことが発端である。そこで算出された数字がショッキングであるが、幕別町は社人研が算出するそれとは違う道をたどると考えている。

                  そのため、どのような人口推計方法が幕別町に適するのかを考えていきたい。

                  国の長期ビジョンに従う自治体もあるが、2060年に出生率が2.07になるとは想像しにくい（現在 幕別町で1.46）。

森委員        町として採用するのであれば、せっきくアンケートを実施したのであるから、そこで得られた近似値でシュミレーション及び人口目標を設定していくことが妥当ではないか。

堀川委員      第5期総合計画では、どのような人口目標を設定したか。

事務局        第5期総合計画では、平成29年度までの目標人口を28,000人と定めている。この28,000人という数値は、社人研の将来推計人口を上回っているが、そんなに大きな隔たりはないと考えている。

                  推計5と推計6の農村地域の出生率に関しては、サンプル数が少ないため、出生率に信頼性が低い恐れもある。

仙北谷委員    宅地造成が社会増減に影響を与えたわけだが、今後宅地造成が続くとは限らないので、これまでの推計値に頼る以外の算出方法を考えなければならない。

                  人口動向図7(P6)で60歳のリタイヤ組が伸びているところが気になった。リタイヤ組の詳細を知りたいと思った。

                  産業に関しては、十勝管内の他の自治体（帯広市等）との特化係数を検討することで、幕別町の産業の特徴・強みが見えてくるのではないだろうか。

### (3) 幕別町創生総合戦略の骨子（イメージ）について

資料3により西嶋副主幹から説明

（説明概要）

- ・戦略として記載する事項は、基本目標と基本的な方向、具体的な施策と重要業績指標(KPI)
- ・基本目標は、記載の4点、数値目標としては記載例が考えられる。
- ・基本的な方向及び具体的な取組事項については、現在各課からの事業の洗い出しを行ったところであり、提案できるものもあるのですが、平成28年度からの新型交付金に対する2分の1の地元負担の問題や検討を要する事業などもあることから、取り組むべき柱として主な記載例を載せている。
- ・具体的な事業は、①行政で取り組むこと、②民間に行ってもらうこと、③行政と民間が連携して取り組むこと、④広域連携で取り組むことを整理して載せる必要がある。
- ・今回のアンケートを通じた住民からの課題と各地域の人口動向分析結果をもとに、委員の方が普段取り組んでいることや意見を交えつつ、事業の調整を行いたい。

藤原会長 企業の体力がない限り、町は衰退していく。地方創生に関する金融支援が必要。  
1 / 2 の自治体負担では出来得ることは限られていくだろう。

事務局 具体的な施策は、現在庁内で検討しているところである。  
結婚・出産支援においては、企業の協力が必要となってくる。  
会議時間も長くなってしまったので、委員の皆様には、人口ビジョンや総合戦略に関するご意見を、追って発送するアンケートに記入していただきたい。それを次回の審議会までに庁内で検討していく。

次回日程 次回は10月下旬。11月にも審議会を予定している。詳細に関しては事務局から各委員に伺いを立てる。

(20時30分 終了)